日向市東郷地区における福祉施設送迎車両の共同化・空き時間活用による住民移動支援

事業地域	日向市
交通モード	公共ライドシェア
※実証運行	無償運送（許可不要運送）

宮崎県　総合政策部
総　合　交　通　課

【 実 証 ① 】

背　　景

① 東郷地区では、人口減少・運転士不足等の影響により既存の路線バスが縮小傾向にあり、公共交通のみで生活に必要な移動を確保することが困難な状況が生じている。
② 福祉施設が保有する送迎車両は地域内で稼働しており、複数施設間で送迎ルートを共同化することで効率的な運行が可能となり、車両の空き時間を活用することで、地域住民の通院・買物・外出に必要な移動を補完できる可能性がある。

フル活用の方法

施設送迎車両の活用による共同送迎・空き時間活用を実施

〈期待される効果〉

① 共同送迎：福祉施設の送迎負担の軽減
② 空き時間活用：住民の「移動の足」を確保

事 業 概 要

実 証 期 間　令和8年12月7日～ 令和9年1月29日
約2ヵ月間の実証で調整中

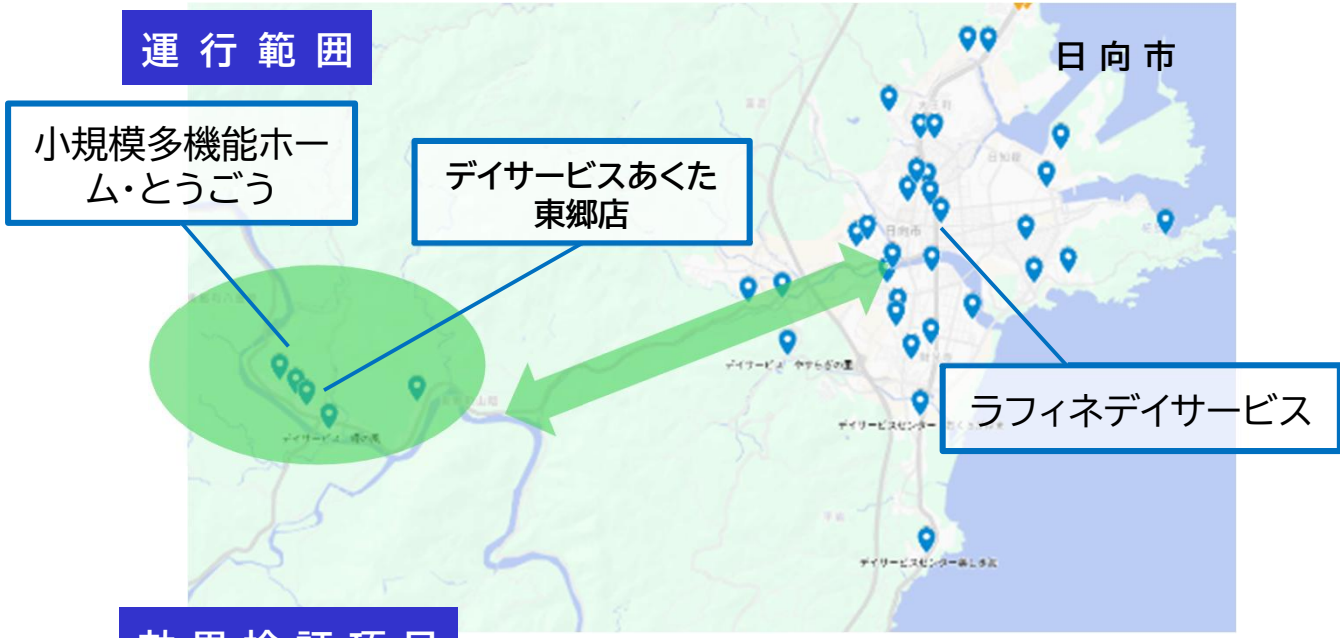
〈運行体制〉

運送実施者	通所介護施設（デイサービスあくた東郷店、小規模多機能ホーム・とうごう、ラフィネデイサービス　計3施設）
運行管理者	日向東臼杵観光機構合同会社
車　　両	各施設の既存送迎車両
ドライバー	各施設のドライバー
保険関係	共同送迎：各施設の自動車保険、損害賠償保険 地域住民：移動支援サービス向け自動車保険（要契約）

〈運行関係〉

運行エリア	日向市（東郷地区～市中心地区）
運行時間	平日朝(8時~10時)、平日午後(14時~16時)
予約・利用方法	施設間：管理者アプリでの依頼 地域住民：利用者アプリ／電話（調整中）
利　　用　　者	施設利用者、地域住民（調整中）

運 行 範 囲



効 果 検 証 項 目

① 共同送迎による福祉施設の負担軽減状況
② 住民の通院・買物・外出機会の確保状況

日向市社会福祉協議会と福祉施設が連携した買物送迎支援

事業地域	日向市
交通モード	互助輸送（許可不要運送）
※実証運行	無償運送（許可不要運送）

宮崎県　総合政策部
総　合　交　通　課

【 実 証 ② 】

背　　景

① 人口減少・運転士不足の影響により既存の路線バスが縮小傾向にあり、公共交通だけでは生活に必要な移動を十分に確保できず、高齢者の買物・外出機会の確保が課題となっている。

② 日向市社会福祉協議会では、高齢者向けの買物支援を実施しているものの、人手や配車調整等の負担が大きく、継続的な運営に課題が生じている。

フル活用の方法

施設送迎車両を活用した買物送迎支援に、共同送迎に関するシステムを導入することにより、業務の効率化を図る

〈期待される効果〉

① 業務の効率化　⇒買い物送迎支援の継続的な運営
② 高齢者の買物・外出機会の安定確保
③ 地域の移動支援体制の維持・補完

事 業 概 要

実 証 期 間　令和8年11月24日～ 令和9年1月20日
※第2木曜、第4火曜、第4水曜（計9日）

〈運行体制〉

運送実施者	特別養護老人ホーム・養護老人ホーム （伊勢の郷、ひまわり寮、立縫の里、牧水園、鈴峰園　計5施設）
運行管理者	日向市社会福祉協議会
車　　両	各施設の既存送迎車両
ドライバー	各施設のドライバー
保険関係	日向市社会福祉協議会で加入の保険

〈運行関係〉

運行エリア	日向市中心地区 （イオンタウン日向、アタックス日向店、マルイチ財光寺店）
運行時間	各月第2木曜、第4火曜、第4水曜
予約・利用方法	電話
利　用　者	買物支援の会員（地域住民）

運 行 範 囲



効 果 検 証 項 目

① 生活に必要な移動機会の確保状況
② 既存交通・支援体制の補完効果

宮崎県　中山間地域における「交通空白」解消・防止パッケージ

椎葉村における集落支援員と公用車を活用した住民移動支援

事業地域	椎葉村
交通モード	公共ライドシェア
※実証運行	無償運送（許可不要運送）

宮崎県　総合政策部
総　合　交　通　課

【 実 証 ③ 】

背　　景

① 被災により幹線バスが唖谷バス停までの運行となり、唖谷～上椎葉間の接続交通の確保が課題となっている。
② 村内のコミュニティバスは運行しているものの、運転手不足等により長期的な運行体制の維持が課題となっている。
③ 集落支援員が地域状況を把握しており、公用車と組み合わせることで、幹線バスとの接続を補完する移動手段を確保できる可能性がある。

フル活用の方法

集落支援員が公用車を活用し、幹線バスとの接続を補完する移動手段を提供

〈期待される効果〉
① 幹線バスとの接続確保による移動利便性の向上
② コミュニティバスの運行負担軽減と持続可能性の向上

事 業 概 要

実 証 期 間　令和8年11月24日～ 令和9年1月29日
約2ヵ月間の実証で調整中

〈運行体制〉

運送実施者	椎葉村/椎葉村観光協会
運行管理者	椎葉村観光協会
車両	椎葉村の公用車
ドライバー	集落支援員/※観光協会ドライバー(補助)
保険関係	既存公用車の契約(村所有)

〈運行関係〉

運行エリア	上椎葉バス停～唖谷バス停/塚原バス停
運行時間	3便/日 ① 唖谷 → 上椎葉　(11:40唖谷着の幹線より接続) ② 上椎葉 → 唖谷　(11:45唖谷発の幹線に接続) ③ 塚原 → 上椎葉　(15:45塚原着の幹線より接続) ※①～③のうち集落支援員が対応可能な便を運行
予約・利用方法	電話
利　用　者	どなたでも(主に椎葉村の地域住民等を想定)

運 行 範 囲



効 果 検 証 項 目

① 幹線バスとの接続確保による移動機会の改善
② コミュニティバスの運行負担軽減・持続可能性の向上
③ 集落支援員と公用車を活用した効率的な運行の実現度

美郷町～日向市間の スクールバス空き時間活用による住民移動支援

事業地域	美郷町・日向市
交通モード	公共ライドシェア
※実証運行	無償運送（許可不要運送）

宮崎県　総合政策部
総　合　交　通　課

【 実 証 ④ 】

背　　景

① 美郷町と日向市は一つの生活圏を形成しており、美郷町から日向市の病院・商業施設などの主要な生活拠点への移動需要のほか、日向市から美郷町のイベント・施設への潜在的な移動需要も存在。
② 自家用車を利用できない住民の市外・町外移動が課題であり、生活に必要な移動手段の確保が求められている。
③ 既存の交通サービスではこれらの移動需要のすべてをカバーできず、スクールバスの空き時間を活用した補完的な移動手段の確保が必要となっている。

フル活用の方法

既存のスクールバスを活用し、スクールバスの空き時間に住民を輸送する

〈期待される効果〉
① 美郷町～日向市間のアクセス向上による利便性の向上
② 既存車両の有効活用による持続可能な交通運行の実現

事 業 概 要

実 証 期 間　令和8年12月3日～ 令和9年1月29日
約2ヵ月間の実証で調整中

〈運行体制〉

運送実施者	日向東臼杵観光機構合同会社
運行管理者	日向東臼杵観光機構合同会社
車　　両	美郷町教育委員会のスクールバス
ドライバー	日向東臼杵観光機構合同会社職員
保険関係	既存保険による運用

〈運行関係〉

運行エリア	美郷町　～　日向市駅
運行時間	平日 午前便、午後便　※曜日指定を想定
予約・利用方法	利用者アプリ　＆　電話
利　　用　　者	どなたでも（主に美郷町と日向市の地域住民等を想定）

運 行 範 囲



効 果 検 証 項 目

① 移動機会の改善（生活の質の向上）
② 地域交通の補完効果（既存交通の不足部分の解消）

美郷町北郷地区における住民互助による買物送迎支援

事業地域	美郷町
交通モード	互助輸送（許可不要運送）
※実証運行	無償運送（許可不要運送）

宮崎県　総合政策部
総　合　交　通　課

【 実 証 ⑤ 】

背　　景

① 隣接市町への移動手段が不足し、高齢者等の買物・外出機会が限定されている。
② 高齢化に伴い自家用車を運転できない住民が増加しており、地域内の移動が家族等の助けに依存している。
③ 町内の公共交通・タクシー供給が限定的であり、移動ニーズに対応できる交通サービスが不足している。

フル活用の方法

地域住民が保有する車両と既存の支え合い活動を活用し、住民同士が移動を補完し合う互助輸送の仕組みを導入

〈期待される効果〉
① 町外への買物など移動の確保による生活利便性の向上
② 家族等への送迎依存の軽減

事 業 概 要

実 証 期 間　令和8年12月20日～ 令和9年1月29日
合計2回～4回、実施予定

〈運行体制〉

運送実施者	美郷町・ちくせん（地域団体）
運行管理者	日向東臼杵観光機構合同会社
車　　両	地域住民保有車両
ドライバー	地域住民
保険関係	移動支援サービス向け自動車保険（要契約）

〈運行関係〉

運行エリア	美郷町北郷地区－イオン延岡SC
運行時間	不定期(期間中に2～4回)
予約・利用方法	地域連絡網、回覧板、電話等
利　　用　　者	地域住民

運 行 範 囲



効 果 検 証 項 目

① 住民の移動機会の改善状況
② 家族・地域の支援負担の軽減度
③ 地域住民による車両提供・支え合い活動の運用実効性